

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Positive Emotion and its Changes during Pregnancy: Adjunct Study of Japan Environment and Children's Study in Miyagi Prefecture

和文タイトル: 妊娠中の肯定的な感情とその変化-エコチル宮城ユニット追加調査より-

ユニットセンター(UC)等名: 宮城UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: The Tohoku Journal of Experimental Medicine

年: 2018 月: 8 巻: 245(4) 頁: 223-230

筆頭著者名: 中村康香

所属UC名: 宮城UC

目的: 本研究は、妊娠期の肯定的感情の特徴と変化に関連する特徴を明らかにすることである。

方法: 妊娠初期と妊娠中期に追加調査の質問紙に回答した3515名を分析対象とした。肯定的感情として妊娠生活の主観的快適さ(0-10)で、産科的背景は不妊症の有無、つわりの症状(1-4)、胎動の知覚(1-4)を、身体的健康と精神的健康はSF-8とK-6および身体的・精神的ドメスティックバイオレンスを問う項目を用いて、家族機能は家族APGARスコアを用いて評価をした。

結果: 妊娠中の快適さの平均得点は妊娠初期が6.13、妊娠中期が6.18であり、有意な差は認められなかった。妊娠中の快適性の変化は、健康関連QOLと家族機能と有意に関連があった。また快適性が減少した群は、快適性が増加した群と比較して、妊娠初期につわり症状が弱く、非就労妊婦の割合が多く、低い身体的・精神的健康状態であり、妊娠中期に抑うつや不安障害といった精神的ストレスが高いリスク状態であった。

考察:(研究の限界を含める) 肯定的感情が健康関連QOLとは同じような変化であったことから、身体的健康、精神的健康は妊娠期女性にとっての肯定的感情に重要な要素である。家族機能が妊娠期の肯定的感情と関連があったことは先行研究による家族のサポートによる妊娠期女性の精神的健康との関連にも支持される。妊娠初期から妊娠中期にかけて肯定的感情が減少した女性の特徴が妊娠初期のつわり症状が軽度であったことから、たとえ不快症状でも妊娠を実感できる身体症状が重要であることがうかがえた。また妊婦の就労状況が肯定的感情に関連していることから妊娠期の就労状況をアセスメントすることが重要である。本研究では一側面からの肯定的感情の測定に限界がある。

結論: 妊婦が妊娠期を快適に過ごすためには、妊娠を実感できる症状を自覚させるような援助とあわせ、健康関連QOL、就労状況、家族機能状態を把握し適切な支援をおこなうことが重要である。